



宇和島市長  
石橋 寛久

## おもてなしのまち を目指して

新年、明けましておめでとうございませう。市民の皆様におかれましては、清々しく健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、平素より宇和島市政の推進と発展に多大なるご支援、ご協力を賜っておりますことに対し、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、様々な出来事がありました。中でも、日本の夏は、気象庁も異常気象だったと認めているとおり、高知県四万十市で41度と最高気温の記録を更新し、山口県、島根県、秋田県、岩手県の一部では過去に経験したことのない豪雨に見舞われました。一方で、東日本・西日本の太平洋側や沖縄・奄美の一部地域では少雨となり、渇水の被害が出るなど、極端な気候でありました。

幸いにして、当市におきましては、大きな被害はございませんでしたが、自然災害は予期せず発生いたします。その対応には、事前に備えることで万全を期し、危機管理体制の充実強化および地域防災力の維持向上に、今後とも力を傾注していく所存でございますので、市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

天候の影響ということで申しますと、昨年は屋外行事を開催する際に雨の降った日が多く、『えひめ南予いやし博2012』の翌年ということもあり、イベントや行事が縮小してしまい、参加者数が減ってしまったのが大変残念でありました。

今年には、『ホノルル市との姉妹都市締結10周年』や『伊達博物館創立40周年』、『第49回全国史跡整備市町村協議会大会』などが予定されており、市外や県外だけでなく海外からも、多くの方々に宇和島へお越しただける絶好の機会でもあります。いやし博で培った知識や経験を活かし、イベント開催日が重なることのないよう、事前に各関係機関と連絡を密に取り合っており、日程調整をして、できるだけ多くの市民の皆様をはじめ市外からのお客様にも参加していただ

けるよう取り組んでまいります。

また、昨年の流行語年間大賞にもなりました「おもてなし」の心をもつて、お迎えし、宇和島の良さや魅力を一人でも多くの方に知ってもらい、宇和島のファンになっていただきたいと思っております。心温まる「おもてなし」をすることにより、相手の方に満足していただき、もてなす側も喜びを感じるといふ関係は、人と人との豊かな繋がりを築くとともに活力ある地域づくりを進めていく源となります。来年に予定される『宇和島伊達400年祭』、3年後の『えひめ国体』を控えて、「おもてなし」の充実を市政はもちろん、市民の皆様といっしょになって実践していく年にしたいと考えています。

どうか、市民の皆様におかれましては、何とぞ温かいご理解をいただき、「おもてなしのまち宇和島」を目指していくうえで、他にも見直すべきことや改善すべきことなど、貴重なご意見を賜りますようお願い申し上げます。

新春にあたり、市民の皆様そして宇和島市にとりまして、本年が幸せで、笑顔に満ちあふれる素晴らしい一年となりますよう心から祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

「馬には乗ってみる、人には添うてみる」「馬の背をわける」「生き馬の目を抜く」……。馬に関する慣用語や諺は数知れませんが、馬がいかに人と深くかわって来たかがうかがわれます。

馬が最初に家畜化されたのは、今から5千年ほど前の中央アジアのこと。以来、人や荷を運んだり、物をひっぱったり、農耕を助けたり、戦場で働いたり、さまざまな場面で大きな役割を果たしてきました。

また、馬と関わりと真っ先に競馬を連想される皆さんも多いと思います。馬同士を走り、競わせる行事は、走馬、競馬、などといって、奈良時代から行われていました。特に端午の節句（5月5日）の競馬は恒例で、ときの天皇が臨観したとの記録が残っています。現代では、競馬といえばサラブレッド。より速く走るように、品種改良を重ねてつくりあげられた馬です。たてがみをなびかせて走る姿は、ほればれとする美しさです。

一方で、「馬の耳に念仏」「馬耳東風」と、無反応、役立たずの代表のようにいわれる馬の耳。これは誤解と考えてよさそうです。馬の耳は、前方にある物の距離を測るなど、優れた機能を持っています。

## 活力と魅力あふれる宇和島の再興のために

新年あけましておめでとうございませう。市民の皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、平素から市議会の活動に対し温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、近年、不安定な世界経済に呼応するように、わが国の社会経済も非常に厳しい状況にありまが、一昨年末の安倍政権発足以降は、アベノミクスと呼ばれる大胆な経済政策の推進により、我が国の経済が上昇基調にあることは間違いないと思えます。また、愛媛県として当市の有効求人倍率も改善されてくるなど、当地域にお

いても、少しずつではあります。景気回復の足音が聞こえてきたような気がします。

しかしながら、当市の市民生活がまだまだ厳しい状況にあることは間違いない。疲弊した地域経済を活性化させ、基幹産業である農林水産業の振興や商工業の活性化を図っていくことは、当市における最大の課題であると認識しております。

長期化する経済不況の影響もあり、当市の財政運営も依然厳しい状況が続いておりますが、そのような中にあっても、財政健全化のための努力を続けながら、同時に、景気回復のための様々な産業振興対策や福祉・医療対策、少子化対策、そして防災・減災対策など、山積する諸課題の解決に向け、取り組んでいかなければなりません。

私ども市議会といたしましても、活力と魅力あふれる宇和島の再興のために、より一層の創意工夫と努力を積み重ね、行政運営への監視機能を高めるとともに、議会改革を推進し、議会としての政策立案能力の向上に努めるなど、

市民の皆様のご期待に心えられるよう、全力で取り組んでまいり存でございます。

どうか、本年も市議会に対し、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ことに、本年が皆様にとりまして幸せで実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心よりお祈りいたしまして、新年のご挨拶いたします。



# 午年

## 今年は

「馬の耳に念仏」は、悠然とした馬の姿から連想されたのでしょうか、馬にとっては迷信話ですね。

馬は人間の願いごとにも関係があります。そう、絵馬です。その昔、神に祈願してかなえられたとき、神馬とすように馬を献納しました。しかし、貧しい民は馬を納めることができないので、代わりに馬の絵を描いたり、馬の形に作った木片を献じたりしました。それが絵馬の始まりだといわれています。

午年の今年もまた、神社にはたくさん絵馬が献納されることでしょう。

一年を健康に、無事に過ごせますように、そして世界に平和が訪れますようにと、心から願わずにいられません。

※政治家が選挙区内の皆さんへあいさつ状を出すことは禁止されていますので、議員個人からの年賀状は遠慮させていただきます。

謹んで

新年のお慶びを  
申し上げます



平成26年元旦  
市議会議員一岡